清流

河野節子を育てる会
千葉県香取市小見川１０２５
電話　０４７８(８３)１９２８
発行責任者　和　田　澄　子
ホームページ
http://www.giinjp.com/setsuko_kouno/

黒部川おもてなしクリーン作戦に参加
ゴミ拾いをする河野さん

暑い日が続いております。皆様いかがお過ごしですか？各地で線状降水帯が発生し、被害が出ております。御見舞い申し上げます。

コロナも落ち着き、出かける範囲も広がりました。私も先日、久々に山梨県に行きました。清里高原は、平地とは違いさわやかな風が吹いていて山々の展望を満喫して参りました。お昼には北杜市の「おいしい学校」と称すレストランでランチをいただきました。そこは、「三代校舎ふれあいの里」と言って明治・大正・昭和の木造校舎の一部を残して保存、活用しておりました。なつかしい木造の校舎を見ていると子供の頃にタイムスリップした感じでした。古い建物をレストラン、カルチャー教室、宿泊施設に有効利用し、町おこしに役立てているのに感心致しました。香取市でも夏祭りや花火大会が行われ、夏本番を迎えます。皆様、熱中症には気をつけてお過ごし下さいませ。

清流第94号をお届け致します。

（和田）

6月定例議会報告

5月30日から6月16日までの18日会期で開かれた6月定例議会には、合計14議案が提出され、すべて可決されました。議案第1号―一般会計補正予算で歳入歳出それぞれに**6億4060万1千円を追加し、補正後の総額を362億6186万6千円とするもの。**

歳出の主な内容

＊交通事業者事業継続支援金―520万円（市内路線バス2社に1路線30万円、高速バス3社に1便5万円、市内に事業所を有するタクシー会社5社に1事業者10万円と登録台数1台につき3万円、ただし上限30万円を支給）

＊マイナポイントの申し込み期限延長に伴う業務支援委託料―1377万6千円

＊電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援給付金支給事業―2億6933万8千円（住民税非課税世帯等に一律3万円給付）

＊子育て応援給付金支給事業―6637万円（県独自の小1から中3まで一律1万円の給付に加え、市独自に0歳から未就学児までを対象に一律1万円給付）

＊妊産婦応援給付金支給事業―297万9千円（R5 4/30時点で市民であり、年度内に出産予定の母子手帳保持者に対し一律1万円給付。手続きは7月下旬に申請書送付、9月中旬締切、10月上旬支給）

＊民間保育施設等支援事業―1861万1千円（公立6か所、民間13か所の保育施設の経営安定化支援）

＊認定こども園整備事業補助金―2269万5千円（交付要綱改正に伴うもの）

＊がん検診事業―200万7千円（ウェブ予約受付システム導入経費）

＊さつまいも生産拡大緊急プロジェクト事業補助金―3566万2千円（貯蔵庫や育苗ハウスなど県の補助事業に香取市として10％上乗せし、43％補助）

＊物価高騰対策支援金

農業者支援―2278万4千円

畜産業者支援―3558万6千円

中小企業者支援―7663万1千円

商店会等支援―252万円

＊キャッシュレス決済ポイント還元事業―5300万円（市内で買い物をする人がQRコード等を利用して対象キャッシュレスで支払うと20％程度のポイントを付与。11月から事業開始予定）

＊地域おこし協力隊活動業務委託料―360万円

＊学校給食賄材料費―2926万円

地方から国を変える 全国地方議会サミット2023に参加

7月6日、ローカルマニフェスト推進連盟主催の「全国地方議会サミット2023」が、早稲田大学大隈講堂において開催され、全国から集まった約800名の議員や自治体職員、市民と共に、前田誠之議員と河野が有意義な研修をしてまいりました。

北川正恭早稲田大学名誉教授（元三重県知事）曰く

「議員の定数や歳費の削減が議会改革ではない。住民福祉の向上のために地方議会を変革し、議会をより活性化して、市民や職員とも連携して政策立案できる議会を作っていくことこそが重要」

北川教授や片山善博元総務大臣、廣瀬克哉法政大学学長による鼎談「地方分権の20年とこれからの10年を展望する」他、「一般質問を議会の政策資源にするシクミ」や、奥州市議会における政策決議提案とガイドライン」等、先進事例の発表を聞き、議会をより活性化する重要性を学びました。

「社会の変化が著しいにもかかわらず、政治の変化は遅々として進まず、政治への不信は払拭することができていない今日、議員個人の活動だけでなく、委員会や議会としての活動、議会事務局や自治体職員との連携、何よりも住民と一緒になり、社会を変えていく先頭に地方議会がたつべきことを確認しあいました。地方議会が変われば日本の政治が変わり、社会が変わります。そのために、志のある仲間を増やし、多様性のある議会、政策本位、議論重視の議会へと変革を進めなくてはなりません。」

（サミット宣言文より抜粋）

遅まきながら、香取市議会においても総務政策委員会に於いて特定所管事務調査活動を始めたことの意義を再確認し、さらに、先進議会に倣って市民に期待される議会活動に励みたいと意を新たにしてまいりました。

議会の活性化に向けて 総務政策常任委員会で所管事務の調査開始

前回の「清流」でもお知らせしたように、今まで香取市の常任委員会では、市当局から提案された議案についての審議、採決が主な活動でしたが、総務政策常任委員会では、新たに、所管事務の中から、市民ニーズに合った課題を抽出して、一年間調査研究し、できれば市当局に対して提言できるような活動をしていこうと決定し、まずは、**4月28日に先進地である「つくばみらい市」に研修に行きました。**

つくばみらい市は、わが国初の実測日本地図作成に関わった伊能忠敬と間宮林蔵の歴史的な繋がりから、香取市との友好関係を結んでいる市で、議員同士の交流も行われています。

そのつくばみらい市議会は、常任委員会の活動により、市政の各分野における課題の解決に向けて調査を行い、市長等の執行機関に対し、具体的な政策や施策を積極的に提言する目的で特定所管事務調査を行っており、全国市議会議長会発行の「全国都市の特色ある施策集」に取り上げられています。

4月28日1時半よりつくばみらい市の谷和原庁舎3階、全員協議会室においての研修は、議長他各常任委員長、事務局の8名の皆さんに迎えられ、

裏面へ続く

香取市議会からは久保木清司委員長、加藤裕太副委員長、前田誠之、辻達弘、根本義郎、奥村雅昭、河野節子の各委員と議会事務局長、次長が出席し、活発な意見交換、質疑応答がなされました。

つくばみらい市では、所管事務調査の対象とした案件の中から1つを特定し、概ね1年を通して調査研究し、その結果について市長等の執行機関に対し具体的な対策を積極的に提言する目的で、定例会の閉会中も委員会活動を行っております。

平成28年に教育民生常任委員会が初めてこの活動を取り入れ、以後令和2年から全常任委員会で実施されています。

テーマとしては、「消防団の在り方について」「投票率向上のための取り組みについて」「民間委託等の導入支援に関する調査について」等が、総務委員会として取り上げられたものです。

この活動の効果としては、

＊委員会活動が活発化し、議員間の討議ができる。

＊一年間の調査研究を通じて所管事務の課題について深く理解することができると同時に、委員会として市の執行部に提言していくことにより、課題の解決に寄与できる。

＊市民の代表としての議員が市民目線で考察・検証することで、行政側が進めている施策に対しても別の角度から提案、提言ができる。

＊提言に対する回答や進捗状況を委員会として報告を受けることで、市政に反映されているかどうかのチェックもできる。

等が期待され有意義な研修となりました。

つくばみらい市の議場にて

5月16日　つくばみらい市での研修をもとに、総務政策常任委員会でも課題を抽出し、一年間の調査研究をすることに委員全員の賛成をもって決定し、テーマを何にするか話し合いました。

各委員から提案された中から市民に関心度の高いであろう**「公共交通の在り方について」を調査研究することに決定**しました。

また、香取市地域公共交通協議会の資料を請求し、次回の委員会までに、各自勉強しておくこととしました。

6月16日　市当局が取り組んでいる地域公共交通計画策定のスケジュールに合わせ、**12月までに調査報告の提案ができるよう目標を定め**、そのためには、6月22日に開かれる協議会での事業実施状況の評価等の報告を聞き、執行部との意見交換をする。また先進地の視察も計画するということを決めました。

6月28日　市の企画政策課より協議会の会議内容について報告を受け、各委員から活発な質疑や提案がなされました。

令和4年の**循環バスの利用者**は、**4万9101人**で前年より8022人増加、特に休日周遊ルートが4767人（87・6％）増加していますが、これは観光客も含まれています。次に多いのは小見川、城山ルートで小見高生の乗車が多いのではないかと思います。逆に減少しているのは、小見川・高萩ルート、大戸・瑞穂ルートと山田ルートです。

路線バスの利用者は4万4380人で、前年より884人（2％）の微増。

高速バスは、13万1225人で前年より3万7248人（39・6％）増加、特に銚子東京線の佐原・小見川ルートが2万6186人（47・8％）増加しています。

小見川の中央、東南地区で利用されている**乗り合いタクシーの利用者は7171人**で前年より756人（11・8％）増加。

高速バスの便の増加など市民の皆さんからの要望を伺いますが、何といっても**一番の難題は運転手不足です。**

そこで**千葉交通の路線バス**が**一部廃止あるいは再編**されることになりました。

大倉線、神里線、上の台線は、学生の通学に利用される平日は運行されますが、**土・日・祝日は運休。**

栗源～成田空港線は、平日はJフィルムまで、土・日・祝日は、**the Farm**までで**5便から3便に減便になるとのこと。**

特に深刻化している運転手不足に対する対策として、

＊普通免許と二種免許で運転できるワゴン車を導入してはどうか。

＊市として従業員募集に手伝いができるかどうか検討中。

＊事業者の対策として、二種免許取得に補助制度導入を検討。また市外からの移住者に家賃補助検討。

＊自動運転バスの導入は？

＊スクールバスの運転手を活用できないか。

等、約一時間余にわたる企画政策課との質疑応答の中で、問題点が浮き彫りにされてきました。

次に、**まちづくり支援員の小林昭男さん**にお願いし、**「香取市における《移動課題》について」**を市民の立場から研究された資料を基に意見を伺いました。

小林昭男さんは佐原の出身HONDAで人工知能や自動運転の研究をしていたという経歴の持ち主で、香取市の人口減少や少子高齢化の状況と特徴などのデータを集め、**「移動課題」の現状と今後の取り組みについて市民と行政が協創・協働に向けた枠組みを作っていきたいという思いを訴えられました。**

＊「NPO法人ふれ愛」の活動が非常に喜ばれているが、担い手不足で目いっぱいの現状。他の地域にも普及させたいが、まずは、できる地区から地域の課題を住民自ら考えて活動するまちづくり協議会に提案して、香取小区のまちづくり協議会が買い物支援に取り組んでいるとのこと。

＃「NPO法人ふれ愛の活動」とは、山田区に事務所を持ち、高齢者による体力の衰えをカバーする生活支援（生活・買い物・通院等の支援）に移動手段として自家用車を持たない、または運転ができない交通弱者の支援を目的として、買い物や通院時に送迎だけでなく付き添ってもくれるので非常に助かると好評。

利用者の需要が増加しているが、活動できる登録者の高齢化や後継者問題を抱えている。

行政の縦割りの弊害が問題視されていますが、今回の委員会でも、企画政策課ではスクールバスの状況は答えられず、また高齢者タクシーという交通手段については福祉課が担当ということで、公共交通の在り方について全体的に把握するには、関係する課を一堂に集めて意見交換することの方が良いということになり、次回は、7月19日総務政策常任委員会を開催することになりました。

河野議員の活動報告

R5年4月1日　中央地区社協一人暮らし高齢者の花見（城山公園）
2日　ボランティア清掃
4日　中央地区社協総会
7日　まち協サロン訪問
8日　studio Dao mini ライブ
9日　桜プロジェクト草刈り
10日　小見川中央小学校入学式
11日　小見川中学校入学式
14日　香取神宮例祭
15日　まちづくり協議会役員会
16日　桜プロジェクトで喜多方市の枝垂れ桜視察
18日　中央地区社協役員会
21日　まち協サロン訪問
22日　橘ふれあい公園キャンプ場グランドオープン式典
28日　総務政策常任委員会でつくばみらい市視察研修
5月6日　中央地区社協一人暮らし高齢者の集い
7日　香取市手をつなぐ親の会総会
10日　水郷小見川観光協会総会
11日　会派代表者会議
13日　まちづくり協議会役員会
14日　山田星太鼓20周年記念公演
16日　小見川社会福祉団体連協総会
総務政策常任委員会
20日　生涯大学講演
23日　議会運営委員会
25日　風の郷「厚生園」創立記念式典
27日　小見川中央小運動会
28日　桜プロジェクト総会
30日　6月定例議会本会議
6月1日　中央地区社協役員会
7～8日　本会議（一般質問）
12日　総務政策常任委員会
福祉教育常任委員会
13日　生活経済建設常任委員会
16日　総務政策常任委員会
議会運営委員会
本会議（最終日）
行政懇談会
22日　自民党パークゴルフ普及振興議員連盟主催パークゴルフ大会
24日　黒部川クリーン作戦参加
まちづくり協議会役員会
27日　小見川区V連総会
28日　総務政策常任委員会
29日　中央地区社協役員会
7月2日　市民レガッタ大会
6日　全国地方議会サミット2023（於、早稲田大学）
7日　市V連総会
8日　まち協駅前花植え
10日　空港周辺市町村連絡協議会
11日　中央地区社協役員会
12～13日　北総11市正副議長会視察研修（那須塩原市）
15日　まちづくり協議会役員会

ひき続き会員を募集しています。
年会費 1口1,000円
会費納入先
郵便振込 口座番号
00170-5-354961